



東京都議会議員

増子 ひろき



Topics 1

東京の液状化予測を見直せ!

▶今回の大震災による長い揺れは広範囲にわたって地盤の液状化を引き起こし、千葉県浦安市を初め、東京においても、江東区、江戸川区など湾岸地域の7区で液状化被害が報告されています。

都議会民主党は、都の予測図で液状化の発生が少ないとされていた地域においても液状化被害が出ていることから、被害の実態を調査・検証の上、改めて都の液状化予測図を見直し、都民に示していくべきと訴えました。

都は、新たに実施する地質調査の結果を用い、専門家などの意見も聴取しながら、来年度末を目途に予測図を見直すとしています。

東京都の液状化予測図



凡例
 ● 液状化が発生しやすい地域
 ● 液状化の発生が少ない地域
 東京都土木技術研究所 1998

融資『東京セーフ』の創設」を掲げていました。

今回の補正予算では、融資目標額が過去最高レベルになるとともに、すべての事業者に対する保証料の2分の1補助の実現や、直接被害を受けた都内中小事業者に対しては、利子の一部を補助することも打ち出されました。

また、中小企業に対する自家発電設備の導入では、国の補助金との棲み分けや燃料の安全管理に向けた企業へのサポートなど、キメの細かい対応を求めてきました。

都議会民主党は、引き続き、中小企業の負担軽減に向けて、取り組んでいきます。

Topics 4

医療機関

万全な非常用電源対策を

▶従来から3日分の備蓄を前提とした災害対策が推奨され、医療機関には非常用電源も確保されており、当面は大丈夫だと言われてきました。しかし、今回の計画停電で、医療機器の不具合や発電可能な時間など、さまざまな課題が明らかとなりました。そこで、発電機、非常用電源装置等の整備支援に合わせて、実際の医療提供に支障をきたさないためには、あらかじめ非常時にも電力を供給し続けるべきものと、一時停止するものなどをしっかりと把握するなど、医療が一時も滞ることのないよう、細部にわたり総点検するよう都に求めました。

都は、自家発電設備の新規整備や増設への緊急支援に合わせて、全病院を対象とした説明会にて、電源供給範囲や発電容量などの再点検を働きかけると答弁しました。

Topics 5

放射線量の測定拡充

都民の不安解消を図れ

▶放射線に対する都民の不安が高まる中、都議会民主党は、6月3日に石原知事に対して、放射線量の測定箇所を増やすことなどを求める緊急要望を提出。都は、6月8日に放射線量の測定を都内全域で実施することを発表し、4キロメッシュで100箇所程度の測定とその情報提供が続けられています。

一方、高濃度の放射性物質が検出された下水汚泥について、東京都は「周辺環境への影響はない」と答弁するばかりです。

今後とも、都議会民主党は、都民の不安解消に向けて取り組んでいきます。



Topics 2

再生可能エネルギー導入こそ

都は行政として支援せよ

▶石原知事は、再生可能エネルギーの導入について、「そんなものだめだ。コストがかかって、出力がなくて、コストパフォーマンスがだめだ」と発言するなど、原子力に代わる産業用の代替エネルギーとしては否定的な見解を繰り返し述べています。しかし都議会民主党は、中長期的には、できるだけ再生可能エネルギーにシフトすべきであり、採算ベースに乗りにくい再生可能エネルギーの導入こそ、都が行政として積極的に支援すべきと考えています。

都は、今後再生可能エネルギーの飛躍的な導入拡大を実現するには、国の全量買取制度が速やかに開始されるとともに、その買取価格や期間について採算が取れる水準を担保する必要があるとの認識を示し、国に対する働きかけを行なっていくと答弁しました。

Topics 3

制度融資や自家発電導入

中小企業の負担軽減を

▶都議会民主党は、被災直後の3月14日に「新たな融資制度の創設を含めた、万全の中小企業対策」などを求める要望書を提出し、石原知事も、知事選の選挙公約で「安心・安全な制度

ご意見・ご要望をお寄せ下さい

FAX.03-3818-3230 E-mail masukohiroki@yahoo.co.jp

連絡先

増子ひろき 事務所

〒113-0033 文京区本郷1-34-4 桑山ビル201
 TEL.03-3818-3330 FAX.03-3818-3230 E-mail masukohiroki@yahoo.co.jp

